

SUNSHINE

第41号 2009年 8月発行
 有限会社 太陽開発
 鹿児島市荒田2丁目43-19 099-255-3623
 E-Mail master91@taiyou1991.com
 URL http://www.taiyou1991.com/

太陽開発

検索 クリック!!



賃貸マンション(オーナー様)をご紹介します

須田様が所有していらっしゃる7棟中の1棟(ヴァイオレット16)を御紹介させていただきます。間取りは2DKと1DKの2タイプのお部屋があります(^.^)ペット(犬・猫)と一緒に生活できるのでとても人気があります。建築士・設計のお仕事をされているので、入居中に困った事があっても、すぐ対応して下さるので、お客様から感謝され、私たち営業マンも嬉しいです。オーナーの須田正己様は、高校時代から始められたボクシングの大会で優勝・国体3位の實力の持主!!『すごいですね』。現在は鹿児島県アマチュアボクシング連盟の理事長や九州副理事長を兼任の他、ロータリークラブの活動にも力をいれていらっしゃいます。今後もチャンスがあれば色々な事に挑戦していきたいとおっしゃられる須田様でした。『私たち社員も見習いたいです...』

ヴァイオレット16

オーナー 須田 正己様

第2ニューセンタービル

田上台マンション



ブルーハウス16

センター12マンション



ニューセンタービル

ヴァイオレット32

世界自然遺産の島、屋久島



先日、全国賃貸管理ビジネス協会の定例会・セミナーに参加する為、世界自然遺産の島!屋久島に1泊2日で行ってきました!私自身屋久島には行ったことがなかったので、旅立つ前日まで、仕事なのだと頭では思いつつ、心はワクワクして仕方ありませんでした。1日目は、セミナーを受け、その翌日は、「千尋の滝」と「紀元杉・ヤクスギランド」に行ってきました。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが屋久島は面積の1割が平地、残り9割は山や林だそうです。また、山間部は月の半分以上は雨が降り、私たちが行った当日も雨でした...。ただ、ヤクスギランドに到着し、世界の巨木が密にそびえ立つ光景を目にした時、屋久島の偉大さを感じました。皆さんもぜひ、機会があれば屋久島へご旅行にいかれてみては!? 注・標高1000m以上の山道は、急カーブが絶え間ないので車酔いをする方はご注意ください!!

神園・田 淵



千年杉
 標高1000mの位置にそびえ立つ千年杉です。こちら以外にも森林のあちこちに樹齢1000年~3000年も経つ屋久杉を見る事が出来ました!!
 マイナスイオンを発生する素晴らしい空気でした~♪♪



千尋の滝
 両手を肩の高さに広げて指先から指先までの長さを「一尋」と呼ぶそうです。こちらの滝の大きさが千尋あることから、千尋の滝と名付けられました。段差60mのダイミツな滝でした



はなつみ...女性は花を摘みながら夫の帰りを待つのが仕事ということから



きじうち...男性は「きじ」を撃ちに行くのが仕事ということから

屋久島いわさきホテルでは、男女のトイレの区別を女性用をはなつみ、男性用はきじうちで表示してあります。

SARA 彩

さらさい

今回は、騎射場にある「SARA彩」様取材させて頂きました。オーナーである吉田様は、元々広島ご出身の方で、大阪で板前修業をされたのち、7年前に鹿児島に来られて、お店を始められたそうです。オススメのメニューは、毎朝川辺から仕入れる、「赤鶏軍鶏(あかどりしゃも)」を使った料理が特に人気で、中でも「赤鶏軍鶏のサイコロ焼き」は、赤鶏軍鶏特有のコリッとした触感が癖になる一品で、ビールとの相性も最高です。地鶏とは一味違った、この赤鶏軍鶏を是非一度食べてみて下さい。また、魚料理にもこだわってらっしゃって、土日、祝日にはなんと、お寿司も出されているそうです。是非一度食べに行ってみてください(^.^)

コリコリでっせー



赤鶏軍鶏のさいころ焼き



赤鶏軍鶏の鶏刺し



マグロのカマトロ焼き

SARA 彩

鹿児島市荒田2丁目42-2
 TEL 099-258-4002

営業時間
 18:00~24:00
 定休日 火曜日

お店の名前の由来は?
 お皿に料理を彩る

SARA 彩

♪料理は見た目から♪
 一つ一つのお料理が繊細に盛り付けされていました(^.^)

うまい!!赤鶏軍鶏のコリコリ感サイコー

つなぎを使わず、山芋だけで作ったお好み焼きはフワフワでモチモチ



山芋のお好み焼き



今月の一冊 其の40



深夜特急

沢木耕太郎

1. 香港・マカオ
2. フレー半島・シンガポール
3. インド・ネパール
4. シルクロード
5. トルコ・ギリシャ・地中海
6. 南ヨーロッパ・ロンドン

1947年東京生まれ。横浜国立大学を卒業後、入行した富士銀行を初出社の日に退社。ルポライターとして1970年に『防人のブルース』でデビュー。以後、スポーツや旅などを題材にした多数のノンフィクション作品を発表している。

デリーからロンドンまで乗り合いバスだけを使って旅する「私」を主人公とした旅行記『深夜特急』は、多くの若者に刺激を与え、バックパッカーの旅行ブームにつながった。今でも個人旅行者の間では、バイブル的な存在となっている。バラエティ番組の『進め!電波少年』は、この作品を企画のヒントにしたといわれている。

「バックパッカーのバイブル」かぁ!私には「沢木氏の心の旅」に受け取られ、この作品によって旅心をくすぐられることはありませんでしたが、男達(主人と息子)のハートには点火したようです。三人共、6冊すぐに読み終えたのですが、その感想には大分温度差がありました。女性にとってはバックパッカーのような危険と隣り合わせの旅は(もともとそんなイメージが)ありましたが、この作品を読んで一層そう思うようになりました。敬遠したくなりますが、最近では女性のバックパッカーも結構いらっしゃるようです。私にとっては、旅立ちの契機とはなりませんが、人生や自分自身の事を考える契機は充分与えてくれる作品です。常々『旅と冒険』について思いを巡らせているのですが、この作品に出会い『日常と非日常』について考えるようになりました。ただ、考えるばかりで、なかなか結論が出ません。